



気高く生きる道を選択します

<http://hatagaya-saisei-univ.jp>

幡ヶ谷再生大学
HATAGAYA RE-BIRTH UNIVERSITY

Hatasai Magazine Special Issue

幡ヶ谷再生大学復興再生部とは？

2006年に仲間内のサークルとして始まった幡ヶ谷再生大学
陸上部や格闘部など、あくまで自分達の間で復興として集まって活動していた。

そんな中2011年3月11日に発生した東日本大震災
日本中、世界中に大きな衝撃と悲しい爪跡を残した。
その復興支援を主な目的とし、その他の危機的な災害が起きた際も
支援出来る非営利団体としてこの度新たに復興再生部を開校する。

幡ヶ谷再生大学復興再生部 部長 TOSHI-LOW

VISION (目的)

2011年3月11日に発生した『東日本大震災』
その被害をうけてしまった地域の子供達の未来構
築を軸にそれに関わる全ての復興支援を目的とし
活動する事。
また、その他予期せぬ危機的事態が発生した際は
状況下に応じて対応していく事。

MISSION (使命)

身体的、精神的にも被害をうけてしまった
子供達への明るい未来を構築していく事。
単発的なサポートではなく、長期を見越して
復興への活動のサポートをしていく事。
幡ヶ谷再生大学の定義に則り、遊び心を忘れ
ずに人間再生と被災地の復興を行っていく事。

CLARITY (明確さ)

当団体の役員は報酬や利益は一切受けず、
全てを災害の復興支援に使用する事。
あくまで直接的に行動する事を前提に行動、
リサーチし、他団体、自治体とも連携しあっ
て明確なサポートをしていく事。
活動予定、活動結果を随時報告する事。

特定非営利活動法人 幡ヶ谷再生大学復興再生部 (23生都管特第1204号)

私たち、幡ヶ谷再生大学では復興再生部以外にも学部を併設しています。
あくまでも自分達以外の人間復興を軸に立ち上げたサークル活動ですので、基本概念に変わりはありません。
その中で、私達の意思にご賛同頂いた方々と共にその他サークル活動も共有できたらと思っています。

陸上部、及び農学部に関しては頻繁に募集を行っています
詳細はそれぞれのWebやTwitterなどをご確認ください。

陸上部



https://twitter.com/rebirth_rikujyo

格闘部



山岳部



音楽部



農学部



<https://twitter.com/nougakubu>

読書部



手芸部



二輪部



映像部



活動履歴

- 2011/3/17~19 tactics recordsおよび水戸の仲間たちによる北茨城・いわき・高萩への支援物資の募集と運搬(飲料水は岩手県宮古市へ)
- 2011/3/29~4/2 避難所に直接物資を届けている札幌のハードコアバンドSLANG KO氏に託すための子供たちへのおやつ募集
- 2011/4/4~5 上記で募集したおやつをBRAHMANメンバーによる岩手県宮古市への運搬
- 2011/5/12~22 岩手県・福島県・宮城県への支援物資(米)の募集。オペレーション米騒動*集まったお米、約10トン
- 2011/8/1~12 福島県 南相馬市への支援物資(飲料水・お菓子・米・レトルト食品・保存食品)の募集。作戦コード「H2O」*集まった飲料水、約25トン
- 2011/8/13 下記で募集した飲料水等を幡ヶ谷再生大学 南相馬キャンパス ライブ前に支援物資受け入れ先の南相馬市「きざずくらぶ」へのBRAHMANメンバー、スタッフ、茨城、福島の仲間による運搬
- 2011/12/11~24 岩手県・福島県・宮城県への支援物資(餅)の募集。作戦コード「SMS」*集まった餅、約7.5トン
- 2011/12/24 茨城、福島の仲間による作戦コード「SMS」で募集したお餅と支援物資の運搬。NBC作戦の協力のもとお届け
- 2012/4/23~5/3 牡鹿半島の小淵浜にてワカメ収穫作業の生徒募集及び派遣
- 2012/4/30 6月17日~7月1日に首長恐竜の親子3体像展示イベントの会場になるみなと荘の庭に数多く混在するガラス片など、子供達が安全に楽しく遊べるように地元の方たちと一緒に清掃整地作業
- 2011/5/13 竜巻被害にあったつくば市北条にて瓦礫処理作業
- 2012/6/10 前回に引き続き、首長恐竜の親子3体像展示イベントの会場のガラス駆除や清掃整地作業の仕上げ

- 2012/6/17~7/1 石巻のみなと荘にて「首長恐竜の親子」の展示イベント開催(め組JAPAN/つなげる・つたえるプロジェクト)
- 2012/9/15~16 東北AIR JAM2012 幡ヶ谷再生大学ブース出店
- 2013/2/7 幡ヶ谷再生大学 読書部として石巻市立湊小学校にて全学年、1クラスずつ読み聞かせ
- 2013/2/25 仙台市立蒲町小学校にて、特別講師として子供達と「生きる」という事をテーマに授業を開催。未だ仮設の校舎ではありませんでしたが、元気で真摯な子供達に再生大メンバーとしても非常に勉強になる講義となる
- 2013/4/29 小淵浜子供広場作り 第1回目 瓦礫を拾って広場を整地、皆でつかう駐車場を清掃
- 2013/5/19 小淵浜子供広場作り 第2回目 整地した土地に柵を設置、入り口正面に花壇を作成
- 2013/7/07 小淵浜子供広場作り 第3回目 ドームテントの設置、草取り、子供達と七夕飾りの作成、公園の整地、花壇の手入れなど
- 2013/7/07 幡ヶ谷再生大学 読書部として穀町幼稚園とふたば保育園にて読み聞かせ
- 2013/8/10~11 幡ヶ谷再生大学 復興再生部-SUMMER SONIC 2013東北復興 PROJECT『音遊海岸』にブース出店
- 2013/8/18 小淵浜子供広場作り 第4回目 土止めのための溝掘り砂利詰めや側溝泥かき、草取り、花壇手入れ作業など
- 2013/9/29 小淵浜子供広場作り 第5回目 壁画ペイント作業を中心に溝掘り砂利詰めや側溝泥かき、草取り、花壇手入れ作業など
- 2013/10/29 小淵浜子供広場作り 第6回目 排水や大雨対策等、公園整備
- 2013/12/01 小淵浜子供広場作り 第7回目 花壇手入れ、壁画の位置調整やペイントその後、みなと荘でお菓子作り教室
- 2013/12/07 小淵浜子供広場作り 第8回目 公園遊具のネット設置、壁画ペイント、花壇作成作業
- 2013/12/08 小淵浜子供広場作り 第9回目 公園遊具のネット設置、ベンチやテーブルなど作成作業
- 2014/01/11 小淵浜子供広場作り ファイナル第10回目 遊具の安全調整と整備、廃材でベンチ、テーブルの作成作業
- 2014/04/29 小淵浜子供広場お披露目会 小淵浜の地元の方々を中心とした子供広場のお披露目会。地元の大原小の児童らによる獅子振りや空手の演武、ミュージシャンの演奏に合わせた地元の住民による歌などを披露

*主な活動履歴を掲載しています。幡ヶ谷再生大学webにて詳細をご覧いただけます



幡ヶ谷再生大学の冊子Vol.4は2014年5月に完成し、その月末から始まったBRAHMANのツアー「Tour1080°」から配布される。名古屋、大阪、福岡、東京、北海道といった場所を訪れ、“旅”が終わる頃には3000部近くあった在庫が数えられるほどになっていた。

ツアーの最中、冊子を手にした方々から「これってVol.4ですけどvol.1,2,3もあるんですか?」という質問を受けた。その声は1人や2人ではなく大多数に及んだ。

今号は各土地で聞かれた“声”にお応えし、より多くの方々の方に届くことを願い、これまでの内容の総集編として発行いたします。

石巻での現地活動を終えて Vol.01

tactics recordsで行なった支援活動「作戦SMS」で出会った学生の高石さん。学校を卒業し入社前に石巻で支援活動をされたとのことで、その活動内容や感じたことをお話いただきました。



まずきっかけから教えてください。

BRAHMAN(tactics records)の支援活動「作戦SMS」をツイッターで知って、物資を集めていた場所と学校が近かったのでお餅を持って行ったことがはじまりです。そのとき、TOSHI-LOWさんと被災地のことや支援活動の話をすることができました。

12月25日に「tactics recordsでの餅の積み込み作業を手伝って下さい」というツイートを見て、前日にBRAHMANが京都でライブだったから人手が足りないだろうな、と思って参加しました。そして3月27日にRACCOS TOKYOでTOSHI-LOWさんと再会して、石巻出身の友人といっしょに現地で何かできないかと考えていることをTOSHI-LOWさんに話したら、石巻で支援活動を続けるゆかりさんを紹介されて、そしてその友人といっしょに現地で活動することになったんです。

どのような活動でしたか?その時の様子とお気持ちを教えてください。

RACCOS TOKYOから2日後の3月29日に石巻に行きました。大学を卒業して、入社までの間に行こうと思って。

石巻に到着すると午後1時から3時まで、ゆかりさんと共に稲井公民館で子供たちとお菓子作りをしました。サブレやクレープを作ったり、お母さん方と話したり。そこで話して下さったのは、こういうお菓子作りなどのイベントが避難先で暮らす子供たちの息抜きになっているってことでした。お母さん方も津波で家を流され近所行き合いなどのコミュニティーを失い、子供たちの通う学校もバラバラになってしまった今、このような催しが、以前からのコミュニケーションの場になっているって話も聞くことができます。

その後は、石巻の大曲という地区の友人の実家へ行きました。まず友人の実家のあった場所を訪ねると、そこは津波に流された何も無い場所でした。

元々、住宅街だったようですが、見渡す限りまだ何もありませんでした。そういえば船は打ち上がった状態のままでしたね。実際に行ってみないと分からない、胸がグッと締めつけられるような、何て言えばいいのかわからなくなりました。

そして、友人の家族が住んでいる自宅へ伺いました。そこは行政が仲介している避難先となる貸家でした。そこは津波が到着したすぐ近くで、いま、もし大きな地震が起きて、また同じような津波が来たとしたら…。

この日はそこで宿泊されて、2日目は何をされたんですか?

2日目は午前中から建物のペンキ塗りの手伝いをしました。津波の被害にあった店を、新しいオーナーさんが別の店に立て直すということで、その塗装のお手伝いでした。壁には2階部分まで津波の跡がありましたね。

そこは飲食店で、元のオーナーさんは自分の家からその店が見えるほど近くに住んでいらっしゃいました。元オーナーの旦那さんからは「思うようにして結構ですよ」と言ってくださっているそうなのですが、奥さんは子供のように育ててきた店という気持ちをお持ちのようで、お店を見るのも辛い、造り変えることにも受け入れられないような心情が残っているとのことでした。

そのような状況もあり、元オーナーさんのご自宅から見える店の屋根とか上の部分は塗装せずに、建物の下部分だけをペンキで塗りました。

昼過ぎにその手伝いが終わると、お店の新しいオーナーさんと門之脇小学校を訪れました。この小学校も津波でめちゃくちゃになったのですが、津波の避難対策がしっかりしていて、みんな無事だったということです。そして、津波に流されたオーナーさんの家があった場所を案内されました。そこも…何もありませんでしたね…。

オーナーさんの話では、家の2階だけが工場(日本製紙)で発見されたとのことでした。津波の後に家のあった場所を確認したところ、いたるところに遺体がある状態だったそうで、赤い旗を立てていったと話して下さいました。言葉になりませんが、また胸が締めつけられて…。

実際に現地に足を運んで思ったことは?

TOSHI-LOWさんの言っていた「なんでもいっしょに行ってみてきたほうがいい」という意味がよくわかりました。見て体感すると、思っていたものとは全然違うものがある。そして、そこでゆかりさんに言われたことが印象的で「被災地にいない人が大変大変って言うけど、被災地で大変って言う意味はその重さが全然ちがう」と。実際、現地に行くとは全く違う感じができました。

現地で見えたものは、想像やテレビで伝えられているものと、被害や状況の比例が合っていないというか、そこで伝えられるのはほんの一面で、実際はもっといろんなことが起こっていて、今回のようなかたちで行ってみて思ったことは、大きなボランティアの募集で行くのもいいですが、それだと、もしかしら現地の方々の話が届きづらいかもしれません。

僕は、小さい単位で参加できて、地元の方々と密に触れ合うことができ、たくさんのお話を聞きました。そして、知り合うことができ、僕自身が繋がることができました。

た。また、現地に行きたいです。そして、あの飲食店がオープンしたときは、そこでオーナーの自慢の料理を食べたいと思っています。

最後に、現地での活動は始めてだったということですが、終えてみてどんな気持ちですか?

前から石巻の友人もいたし現地に行くって支援したいと思ってたんですが、学校の卒業とかで忙しかったり、なかなかきっかけを持ってなかったという。でも、「作戦SMS」がきっかけとなって現地に行くことができました。

そこで思ったことは「ボランティア」って言葉がちよっと難しいというか。TOSHI-LOWさんやゆかりさんにも言われていたんですが、ボランティアって言葉が仰々しくて、それに縛られて、なんか一歩を出し辛くしていることもあるのかな、と。

さっきのオーナーの方の話では、行政はお願いしたことをわかりましたって言っても仕事みたいな感じの受け答えでなにもしてくれないと言っていて、それで、今回やってみて、きっかけも小さなことからいいし、現地に行ってみて何でもいっしょにやってみるっていう、「ペンキ塗り手伝ってよ」みたいな簡単な話だし、一緒にお菓子を作ることで、そういう簡単なことが喜んでもらえることで、そして復興の力になれるんだってことを感じる事ができました。

今日は入社式の準備で忙しいところありがとうございました。

4月からは病院で働くんですが、今回いっしょだった友人は地元の石巻の病院での勤務が決まっています。また時間を見つけて、あの街へお手伝いをしに行きたいと思っています。

2012年3月31日

幡ヶ谷再生大学復興再生部本部にて

石巻みなの荘でのガラス片清掃 Vol.02

4月30日石巻みなの荘の庭に多く混在するガラス片の清掃に参加していただいた幡ヶ谷再生大学復興学部ボランティアのFさん夫婦にアンケートで活動内容や感じたことを答えて頂きました。

きっかけと活動に参加するにあたって考えたことを教えてください。

私達夫婦は福島県民です。大震災で起きたあの事故では避難区域には入らなかったものの、数キロ離れた場所でもう人は住んでおらず、暗い街並みになっています。

BRAHMAN・幡ヶ谷再生大学さんはそんな最中東北に、そして福島にも何度も足を運んで下さり、音楽や支援物資を通して私達に生きる糧を届けてくれました。

自分達ができることを考えそれを実行に移していく力、かっこいいの一言です。そして私達も、もっと出来ることはないかと考えていた時に、今回の石巻清掃の募集があり即応募させて頂きました。

見るだけ、考えるだけじゃいけない、実行に移すこと。その機会を与えて頂き嬉しかったです。

どのような活動でしたか?その時の様子とお気持ちを教えてください。

もともと幼稚園だったみなの荘の庭を子供達がまた遊べるようにガラス片などの清掃を行いました。ガラス片の他にも炊飯器や包丁などの生活用品、ポロポロになった服、錆びた釘なども出てきました。その生々しさが津波の凄さを想像させました。

作業しながら地元の方、参加した生徒の皆、BRAHMANの皆さんと話することが出来ました。震災当時の事を聞きその内容をのみました。そして当たり前ですが当たり前に出てくる福島のことも話することが出来、貴重な機会となりました。

ガラス片清掃をし、土を盛り整地をすることで、時間を気にせず子供たちが安全に遊べられるのであれば嬉しいなと思いながら作業しました。



現地や現場に立って、そこで感じたことを教えてください。

まだ再開の見込みのない小学校、津波が押し寄せた時間で止まっている時計。子供たちが遊ぶ予定の庭にはガラス片、そしてすぐ近くに横たわるひしゃげた電柱。1年過ぎた今も地震の痛々しい跡は残っていて、実際に来て見ないと解らないとはこういうことだと感じました。そして、みなの荘で子供たちが遊ぶにはまだ時間がかかるかなと思いました。

活動を終えて考えたこと、今の気持ちを教えてください。

今回、幡ヶ谷再生大学を通じてガラス片清掃に参加させて頂き、石巻の現状の一片を目にしました。まだまだ復興支援の輪は必要であるとひしひしと感じる事が出来ました。そしてその輪に入り、作業できたこと、部の皆や地元の方と話して良かったこと、大変貴重な体験となりました。

TOSHI-LOWさんと話す機会がありました。その時に「あの福島のライブから1年か、長いね」と言ってくれたのが印象的でした。

よく他の方に言われるのが「もう1年か、あつという間だったね」です。TOSHI-LOWさんの「長いね」には福島のことを思い考えてくれていた時間があってこそ出た言葉だと私は感じました。BRAHMANの、幡ヶ谷再生大学の理念は私の生きる理念でもあると感じることが出来ました。

未来の子供が誇れるような大人になりたい、気高く生きていきたいです。

まだまだ東北の復興はこれからだと痛感できたので、これからも生徒とし活動に参加できればと思っています。今回本当に参加できてよかった。見られて、感じる事ができてよかったです。

木村美輝さんインタビュー（牡鹿半島小渕浜・漁師）

Vol.03

「人手がなくてワカメの収穫ができない」という声から、幡ヶ谷再生大学では4月にワカメ漁バイトを募集しました。その受入先である石巻小渕浜の漁師・木村美輝さんは、震災で奥さんと長男、家と船を失いました。震災から一年が経過した被災地の現状やワカメ漁バイトスタッフとの関わり、木村さんの心境など伺いました。

ワカメ漁バイトを受け入れたことについて聞かせてください。

実際は正直ね、簡単な仕事してもらえればいくらでも助かる。それだけ人手が足らなかつた。素人でもできる簡単な仕事ってのがあるから、最初それをやらせようと思ってた。でも…みんないいやつらだったからさ、やる気もあつて。ちょっとハードルを上げて、簡単な仕事だけでねく、もっとやれることで進めたらバリバリ仕事すんでねえの。

ボランティアのなかにもいろんなタイプがあったからだけど、ノリがいいまま仕事に飛び込んだつうのはない。「さ、やっちゃうぞ?!」みたいな恰好でやろうとすつから、そいつに釣られてみんなして仕事すつから、仕事はかどんのね。多くのライフツウのは激しいっちゃ! あのノリを仕事にぶつけると合うのかも。うちら（漁師）も体使って仕事すつから、そういうとこ合うのかな? と思って。

面白かったし、楽しかった。

そういうことだから、受け入れたってよりも、逆に助けられたほうが。うちはこんなに助かることはなかった。それにああゆう出会いつうのはやっぱり、そんなにあるわけじゃないから。

知らない者同士と一緒にって、何回も何回も集まれるってのは、あんまりねえよな。ボランティアで来る人たちでもさ、何人かは1月度入ってくれるボランティアがいるのね。でも実質1回来てあと来ないって人、かなりいるっちゃ。

でもあのメンバーに関しては4月来てから、5月に来る、そして5月にもう1回来る。そうやって来てくれたもん。しかも遠いところから。神戸から、福井から、北海道からも来てくれる。

今なんかこつち（小淵）に帰ってきてから、ロープワークなんか覚えて。ロープの結び方練習して。すげー子らだなんて思ったもん

ホストファミリーみたいな感じになっている?

そういう感じ。家族と一緒に。

うちのおふくろとおやじも、ご飯用意して毎回持ってくんだった。食わせねえといけねえどって。何か自分の子みてく思ってたんでねのがな。

おやじにしても、張合いになつて。仕事の張り合いじゃなくて、生活の面、精神的につらい部分っていうの、かなりあるんだ。正直まだ。前に進むようにしてつけども、仕事は前に進んでるようにしてつけど、精神的な部分はまだまだ…。

でもそこにみんなが来てさ、あぁやってワアワアって騒いでいれば、忘れてしまふんだよね、苦しい気持ち。苦しい気持ちがさ、一瞬でも紛れば…。

だからおやじもおふくろも、あぁやってしよつちゅう来て話してくんだった。一緒にあって。精神的にも助けられたのがかなりある…。

4月30日、小渕浜にBRAHMANと昔が来たあとき、みんなの働いてる姿とか、楽しそうな感じとか、笑顔とか、こんな雰囲気できるんだと思って、それがすごく心打れたつていうか…。「人と人がつながっていく」ということの良さを、初めて実感したときだった。



ところで震災前は人手があつたのに、なんで震災後そんなに足りなくなつたの?

えっとね…元々地元でも亡くなった人も20人近くいるからだけど、ここから出て行った人たちも…。漁師をやっていない人たちもけっこういて、その人たちも稼いでたつうのもあつた。でもその人たちも今結構出て行ってしまったつし。

あと石巻からも結構、人の募集かけて引張ってきていた。それが来ない。前は就職難とか、仕事がないために、アルバイトしてやつら結構いたんですよ。ところが今は瓦礫の作業があつたら、そっちに定着してしまつたんだ。うちはあくまでも短期間。



瓦礫処理はこれから1年か2年くれえ続つから、そこに人がどんどん行つて。あともう1つは一番ダメなパターンで…保険もらつて、何もしていない。そういう人たちかなりいる。

来年くれえまで人がいないかな。1年か2年は多分このまま続つのかなつて。瓦礫の作業に人引張られていつたら、結局、そんなに人がいなくて、どうしても苦悶すつたよね。

そんななか、なんで美輝さんは仕事始めようと思つたんですか?

仕事はね…元々漁船とカキの養殖やってたんだけど。漁船はもう壊れたから。船をやるとなつと、うちを離れる期間多くなるんだ。夜昼関係なく動くから。そうすつと、子どもたちと暮らす時間が少なくなるな、と思って、船を諦めたの。

カキ1本で食えねえな、つて思つてたし。そんだったらワカメやろうかなと思って、今回初めてやったの。だから仕事も、精神的な部分もかなりひどかつたの、今回初めてだから。どういう風にしてやつたらいいかわかんなく、先輩たちに聞きながら…。

結局俺たち漁師って、陸が上がつたらカッパと一緒に。陸の仕事まんねえんだ。今更この年で陸が上がつて仕事するつてたつて、無理な話あつた。だつたらもう1回やり直すべなつて決めたのは早かつた、俺は。

ただショックは大きかつたんだ。家族亡くしたショックつうのは、かなり大きかつたんだけども。それでもやっぱり子どもも育てていかなくばなんねえなつて気持ちがあつたつし。あとは稼がなきゃあ、つて動き出した。

仕事してるときってさ、何か余計に考えなくていつからさ。今でも1人になつて考えることはマイナスなことしか考えねえから。逆にみんなにこうして来てもらえて、こうして飲んだりすつちや。そうすつと、変に考える時間がない分…。逃げてるつて言えば逃げてるのかもしいけど、その苦しつたつのは…もう…耐えられないのね。

俺は息子を自分で見つけてきたつたがらさ。息子の亡くなった姿つうのを見てんの、どんな格好だつたか。奥さんも亡くなったの見たつたけども、奥さんに関してはもう月日が経つていたから。そういうのも考えだときに、あ〜かわいそうになつて、もういつて考えと、いてもたつてもいられなくなる。どんなに苦しつたんだとか、怖かつたんだよな、つて…。そうやって考えていくと、どこまでもどこまでも落ち込んでいくんだ。落ち込むのが、嫌だつてわけじゃないけども…。

いつまでもいつまでもいつたつては拭い去れるものではない。たぶん一生背負つていかねばならないべな、つて。そのなかでみんながな、楽しくしてくれれば、ちょっとでも楽になる。

その苦しみから逃げてるつて言えば逃げてるつたけど、それでも、その一瞬だけでもみんながこうして来て楽しくしてもらつただけでも、俺は楽になるな、つて。だから感謝してるんだ。…。

仕事が大変なのは、男だからさ。何とか自分が頑張ればと思うけども、精神的なものは…拭い去れないものだからさ。

だから…、俺は思うんだ。日常が…今多分みんな普通に生活してつのが、満足してねえ人たちが結構いると思うんだ。それがさ、でも俺から言わせれば、どのつけさせだつたんだよなつて、今すごく実感してる、すごく…。

当たり前前ものが、当たり前でなくなったとき、それを考えると、今の生活、どのつけさせなのか…。かみしめてもらいて貰いたいな、つて思う。

美輝さんが言ったように、ボランティアで来ててもなかなか関係が続かない、もちろんボランティアで来た人たちにも元々の生活があるから、そんなに来られなくなる現実はある。でもボランティアとか被災地とか関係なく、そこでできた縁を大切に、つなげていってほしいなつて思ってる。

俺もそういう感じだ。人とつながりつうのを大切にしたいつうのがあつた。感謝つて気持ちもあつたら、いつまでもいつまでもつづつと続けられればな、つて、あいつらもそうやって来てつからさ、俺も嬉しいつす。

ボランティアのなかには「作業がないと被災地に行けない」つて言う人多い、でもそうじゃないと思う。夏休みだから来たよ〜とかで、いいと思つてる。そういうつながり人が支えると思つているから。人間の心つてそんなに簡単に、瓦礫が片付いて街並みが変わるようには変わらない、それに長く長く寄り添う。一緒に楽しむのもよし、泣くのもよし。付き合ひ続けることが一番大切じゃないかなつて思う。



俺もそう思う。あいつらには、彼女や彼氏ができたまま連れて来いよつて。俺が仲人すつから〜つて。

どこ行つたつて、ここでのくれえきついで仕事、そんなにあるわけねえんだから、どこさ行つたつて通用すつから自慢してもいいよつて。もしどこかで弱音吐いたら、俺の仕事そんなに柔だつたのつて思われつたら、どこかに行つて何かしたら意地でも続けるよつて。

幡ヶ谷再生大学の大学生だとすれば、これだけの優秀なやつらはいないんじゃないかと。学力でねえからさ。どんなにつぼつてようが、どんなにやんちゃしようが、どんなに真面目だろうが、人としてできねければ。その点では大学から寄こした人たちは優秀だつた。かなり優秀だつた。どこに行つても自慢できる。

仕事は夏いっぱいあつたのね。みんな何もしてあげつたら、また呼ぶつて (笑)

2012年6月26日原宿VIRGO事務所にて

牡鹿半島小湊浜ワカメ収集作業

Vol.04

2012年4月～5月牡鹿半島小湊浜で漁師の木村美輝さんのワカメ収集作業の手伝いに参加していただいた幡ヶ谷再生大学復興部ボランティアの方にアンケートに活動内容や感じたことを答えて頂きました。

田淵 一平 太 さん

きっかけと活動に参加するにあたって考えたことを教えてください。

今回、石巻でのワカメの募集を知ったきっかけは再生大学のHPです。被災地には以前から足を運んでいたのですが特別不安はありませんでしたが、ワカメの収穫作業の手伝いということで、何をやるのか全く未知数という部分で心配がありました。ただ、漁師仕事を実際に経験するという機会もなかなかあるものではないので、心配以上に楽しみな気持ちが強かったです。



どのような活動でしたか?その時の様子とお気持ちを教えてください。

今回の活動、及び仕事の内容は
1.沖でのワカメの刈り取り作業。2.収穫してきたワカメを塩蔵する作業。3.塩蔵したワカメをカゴにあげる作業。4.製品になったワカメを箱詰めする作業。

漁師さんたちと行う作業の一日の大きまな流れで、これ以外にも、天候次第で作業内容は変わるし、色々やる事がありました。

とにかく力仕事で、ワカメってこんなにでかくて重いのかと(笑) 募集の際にもとにかく作業なのでは書いてあったので、多少覚悟はしていったのですが、想像以上でした(笑)

ワカメって海に浮いているものだというイメージだったので。漁師さんにも、慣れるのに一週間はかかると言われていたのですが、最初の週間は本当にきつくて、全く役にたてなくて、、、とにかく必死でした。

本当にワカメに対する考えが変わりましたし、それだけきつい作業を、自分の親と同じ年くらいの漁師さん達が、慣れてるとはいえ黙々とこなす姿は本当にカッコイイなぁと思ったし尊敬させられました。

今回お世話になった漁師さんたちは皆さんとてもパワフルで暖かい人たちがばかりで、仕事も毎日楽しくさせていってくることが出来ました。ただそんな中でも、漁師さん達と近い距離で共に仕事をして、あれだけのことがあって、あれだけの被害を受けてなお、海を相手に仕事をする、生きている姿をみて本当に色々なことを考えさせられました。

現地や現場に立って、そこで感じたことを教えてください。

今回、僕たちは木村美輝さんという漁師さんの家に住み込みでお世話になっていたのですが、漁師さんやその家族、親戚の方々、色々な人達と本当に近い距離でつきあうことが出来たと思います。

美輝さんの家も実際に大きな被害にあっていて、一階部分は柱だけ残ってほぼ全壊していて、二階も水につかかっていて、震災当初は瓦礫でとても中に入れる状態じゃなかったそうです。今は多くの人の手によってだいぶ片づけられていて、一階は作業場で、僕らは二階に寝泊まりさせて貰ってました。僕が行った時は僕以外に2人で泊まっていたんですが、だんだんと人が増えて、一番多い時で7人寝泊まりしていて、みんな同世代っていうのもあって、合宿みたいで本当に楽しかったです。

美輝さんやそのご家族の方にも家族ぐるみのように付き合っていたら、僕らの方が本当に感謝で、日々本当に楽しく過ごさせていられました。

活動を終えて考えたこと、今の気持ちを教えてください。

家に帰ってきて、かなり濃い一カ月だったと思います。なかなか出来るものではない貴重な経験が出来たとてもよかったと思います。この一カ月を終えて思うことは、これからだなぁ、ということです。今回できた繋がりは帰ってきて終わりではなく、始まったばかりで、今後とも何かあったときにお互いが助け合っていければいいと思っています。今回、漁師さんにも「本当に助かったありがとう」と言っていたら素直にとてもうれしかったんですが、僕自身が逆に感謝することが過ぎて本当にお互い様だなと改めて強く思ったし、今後とも何らかの形でこういった活動を続けていきたいと思います。

最後に、冊子をご覧の方々に伝えたいメッセージがありましたらお願いします。

今回、幡ヶ谷再生大学の呼びかけのもと、現地に足を運べただただありがたかったと思っています。なかなか被災地に行きたくてもどうやって行けばいいかわからなかったり、一歩前に踏み込めなかったりする人も多いと思うんですが、自分の好きなツールでならばその一歩が踏み出しやすいんじゃないかなと思います。

実際、今回再生大学の募集が集まったのは5人だったのですが、5人のうち3人が被災地は初めてでした。これはとてもすごいことだと思います。どんなことがきっかけでもいいから、本当に多くの人に東日本の、東北の現状を実際に自分達の足で見に来てほしいと思うので、自分の好きなことや物や人たちの呼びかけで現地に足を運ぶ人が増えればと思います。今回は本当にありがとうございました。



立川 景子 さん

きっかけと活動に参加するにあたって考えたことを教えてください。

私は、4月23日～5月4日まで働かせていただきました。
初日合流した時から、同世代が集まっていたのもあってか、すぐ打ち解けました。
ほんとと気のあう子ばかりで楽しく働きました。私は震災後ボランティアには行ったことがなかったし、たくさんボランティアの方々がいるなか、お金をいただいて行くのはいいのか?とか引かかる部分を抱えていましたが、ゆかりさんや美輝さんに話すとそれでいいんじゃない?とか、その方が割り切って仕事頼みやすい!!と言っていたり、実際行ってみるとなただか仕事場の皆さんと近かった気がしました。



現地や現場に立って、そこで感じたことを教えてください。

石巻はまだまだ地震や津波の跡が残っていて、浜の皆さんは当時の話をたくさん聞かせてくれました。
壮絶な話に言葉もでなかったけど、やっぱり自分の目で見て、自分の耳で聴いて、新聞やテレビで見るだけの物とは違うモノを感じる事ができました。

活動を終えて考えたこと、今の気持ちを教えてください。

時間はかかるかもしれないけど、きっと新しい未来があるって希望をもって欲しいって思うし、その為に一緒に前向きに歩いていきたいと思いました。
私の神戸の街がそうだったみたいだ。

美輝さんは、震災の話、亡くなった奥さんと息子さんの話、いろんな話をしてくれました。くだらない話でも、仕事の話でも、恋の話でも、将来の話でも、下ネタも(笑)なんでも真剣にしてくれる熱い人で、ご家族も皆とても暖かい人達でした。本当の家族のように私達と接してくださいました。一緒にご飯行った時に、こんな楽しい感じ、昔に戻ってみたい!!と言ってくれたのが、とても印象的でした。



最後に、冊子をご覧の方々に伝えたいメッセージがありましたらお願いします。

今回幡ヶ谷再生大学から小湊浜を紹介してもらって、同じタイミングで素晴らしい方々や仲間に出会えました。行って本当に良かったです。
そんなきっかけくれた幡ヶ谷再生大学の皆さんや、ゆかりさん、受け入れてくれた美輝さんに感謝しています。本当にありがとうございました。

原立 さん

きっかけと活動に参加するにあたって考えたことを教えてください。

募集を知ったのはTwitterでした。
参加にあたっては、自分はボランティアなどの経験もなく、船に乗ったこともない、ましてや東北に行くのも初めてだったので不安なことはたくさんありました。
でも、行こう。行かないや何もわからない、と思って勢い半分決めました。



どのような活動でしたか?その時の様子とお気持ちを教えてください。

活動としてはワカメの収穫、釜茹で、塩蔵、製品の仕分け、製品の箱詰め、というような作業でした。作業の内容としては、朝船で沖にでてワカメが生えているロープを引上げて鎌で刈る。刈ってきたワカメを釜茹でて袋に詰める。その袋を塩蔵機に入れて塩蔵する。塩蔵したものを仕分けして、脱水、箱詰め、というような流れだったと思います。
素人の僕にはわからないことだらけで、とにかく肉体的にとってもハードな作業でした。毎日腕がパンパンでした。それでも、漁師さんや地元の方たちは優しいし、同世代で手伝いに来てくれる仲間も仲良くなれてすごく充実していました。こっちが助けに来たはずなのに、それ以上のものをもらった気がします。

現地や現場に立って、そこで感じたことを教えてください。

テレビで津波の映像を観て、現実のことは思えなくて。当たり前のことなんだけど、でも現実だったんだな、って思いました。
家は土台だけになって道路はガタガタになって残ってる建物もボロボロになって、改めてすごいことがあったんだと思いました。

活動を終えて考えたこと、今の気持ちを教えてください。

まずは本当に行って良かったです。
やっぱり自分で見て、体で感じて初めて実感できました。僕の中で震災が現実のものになった、ような感覚です。
仲間ができました。みんなと一緒にあったから体はキツかったけど本当に楽しかった。
まだまだ手伝えることいっぱいあるみたいなのでまだまだ必ず行きます。

石巻での子供広場作り

「公園は遊具が流されたままで、空き地にもガラス片や石が残ったままで子供たちが外で安全に遊ぶ場がない・・・」

震災後宮城県石巻に関わり、1年以上経って聞くことが多くなった声。

それに対して私たちにできること。

1人でも多くの子供が元気に楽しく遊ぶ場を作ること。

地元の方とたくさんの仲間が集まって子供広場作りが始まりました。



特定非営利活動法人となった幅ヶ谷再生大学の活動の告知は、幅ヶ谷再生大学ウェブサイトまたはSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)によってお知らせします。

募集は規定人数に達し次第終了します。参加者は近隣に住む者のほか、都内近郊、または遠方から駆けつけて頂きました。



公には、合計三回に分けて人員を募集した宮城県石巻市街道の「石巻での子供広場作り」。そのすべにて出席し、愛知県から駆けつけてくれた、アスカさん、エリさん、カナさんを紹介したい。

日常の仕事を持ちながらも参加されたきっかけは、ロックバンドHi-STANDARDの主催した音楽フェスティバルAIR JAM 2012のお客さんであり、翌日にSNSを通じて「その日」を知ったそうだ。

遠方に住む者にとって、いわゆる“被災地”を目にする事は“時間と距離”が弊害になる。そういった意味でもAIR JAM 2012は、その機会をつくることに一翼を担った。

幅ヶ谷再生大学の活動を当日知った3人は参加するつもりではなく、差し入れをして帰るつもりだったそうだ。そんな折、学長を務めるTOSHI-LOWから『参加して?』と誘われ、返事をするまでに時間はかからなかった。

この活動に参加することに異なる目当てがあることは少なくない。彼女たちも心のどこかにそういった感情があったとしても、それからは、“お目当て”がいなくとも石巻市で出会った“新たな友情”のためにおよそ10時間の道のりを交代で車を走らせ訪れている。

初めて幅ヶ谷再生大学の活動に参加した時の感情を教えてください。

ボランティアの経験もなく初めてのことで、何をしたいのかも分からずあふた...でも、現地の子供たちとすぐに仲良くなれて一緒にペンキ塗りをしました。人見知りする子がいなく、みんなスゴク元気で笑顔がキラキラしていて『あ〜またこの子たちに会いたい!一緒に遊びたい!』と思いました。(アスカさん)

最初こそ違う目的でしたが、地元の方とお話して公園作りの近くでも14人もの方が亡くなったこと、また津波の爪痕を目の当たりにしました。体験できて良かったと思いました。(エリさん)

当日参加だったので、食事など人数に入っていないだろうとすぐ遠慮していました。子供たちの笑顔いっぱい、大人たちも楽しみながら見守っている空間が素敵でした。笑顔いっぱいの裏に悲しい思いをたくさん抱えていることなど、後で知り驚くばかりでした。そういうギャップもあり、こんなに素敵な活動があったのか!と本当に感動しました。(カナさん)

活動に参加して、最高だった思い出を教えてください。

ゆかりさんをはじめ、素敵なお方たちに出会えたこと。小学生のお友達が来て手紙や写真などで今でも交流していること。(アスカさん)

石巻の子供たちに出会えた事!(エリさん)

タイヤが設置されてすぐに子供達が遊びだした時、元気いっぱいに遊ぶ子供たちを見てこちらも笑顔になりました。すごく嬉しかったし、癒されました。(カナさん)



彼女たちはあの日から足繁く東北に通う“3人”になった。

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とは?

「これをしてください!」とか決まりのない、ゆるい活動をしている場所(笑)ボランティアに行ってみたくて、何か役にたちたいと考えてはいたけどなかなか行動に移せなかった。でも思い切って行ってみたら私にとってすごく貴重な経験や出会いができたステキなところ。感謝しかないです。本当にありがとうございます!

「つなげる・つたえるプロジェクト」「幅ヶ谷再生大学復興部」これからも可能なかぎり参加させていただきます!(アスカさん)

嘘のない大学です(笑)今後ともよろしく願います。(エリさん)

たくさんの事を考えさせてくれるキッカケを作ってくれた場所。また、何かできる事があるんだ、と気づかせてくれた素晴らしい活動をしている場所です。(カナさん)



そもそも愛知県に住む彼女たちは何事もなかったかのような日常をおくっていた。1年半が経った2012年9月、初めて東北に行って感じたのは「復興にはまだまだ時間がかかる」という共通意識だった。同じ日本にいて、こんなにも生活の温度差があることを目の当たりにし、衝撃を受けた。それでも、「そんな中で出会った子どもたちの笑顔がとても素敵で、少しでも力になりたい」と口をそろえる。



活動には現在も参加し、活動で知り合った仲間とともにKESEN ROCK FESTIVALにも出向き、現地の人と言葉を交わしている。笑顔で会話する裏には想像を絶する悲しみがあることを知るが、その哀しみに寄り添っている。

公園は地元の同志たちによって見守られている。

2013年現在、幡ヶ谷再生大学の「自主連」と称し、草むしりをする阿部貴宏さんだ。

東北ライブハウス大作戦によって地元で完成したライブハウス「BLUE RESISTANCE」でLIVEがあれば足繫かよう彼は、その土地で生まれ育った青年の一人だ。



活動に参加して、最高だった思い出を教えてください。
沢山の仲間に出会えた事です。

公園作りに初めて参加してから、現在の心境を教えてください。

まだ2回しか小測（現在進行中の公園）に行けていませんが、作業している最中、大人も子供もキラキラした笑顔がいっぱい、あんなに温かい気持ちで沢山詰まった公園は他には絶対に無いだろうと思っています。
音楽を通して繋がった沢山の仲間、音楽の力って本当に凄いなと思っています。

自分の人生にとってこの体験は役立つと思いますか。

はい。活動を通して知り合った仲間がいます。彼らと一緒に出来ない事なんか何も無いと確信しています。

いつまでも子供達の笑顔を守り続けるために尽力します。

あなたにとって幡ヶ谷再生大学とは？

仲間との繋がりを再確認する場であり、新しい仲間に出会える大切な場所です。



初めて活動に参加したその時を『やっと返しが出来る!という気持ちでいっぱい』と話す阿部さんの言葉には重みがあった。当事者しか知り得ない事実と情報は、まぎれもない真実である。

だからこそ彼は草むしりを自主的にしてくれるのだろう。そんな彼とその仲間たちがいる限り、公園は今後も温かく見守られていこう。

お仕事は何をされていますか？

看護師です。

幡ヶ谷再生大学の活動を知ったのはいつ頃ですか？

大街道の公園を作り始めた日にTwitterで知りました。

幡ヶ谷再生大学の活動に参加されたキッカケは何だったのでしょうか？

生まれも育ちも大街道で、大好きな地元にあんなに温かい公園を作って頂き自分が出来る事で返返しをしたいという思いが参加へのキッカケです。

2011・3・11と今回の自分の活動は関係していますか？

間違いない関係しています。震災後、仕事以外で誰かのために何かしたいと思っていましたが、なかなか行動に移せませんでした。幡ヶ谷の活動を知り参加出来た事で、ようやく行動に移す事が出来るようになりました。

現在の心境はいかがですか？

全国の皆さんの御協力で復興は進みつつあります。しかし、瓦礫が片付くにつれ更地が広がっています。大好きな地元の光景は全く違うものになってしまいました。悔しい気持ちでいっぱいです。

宮城県在住とお聞きしましたが、日頃、何を考えますか？

震災後、小学校に避難した時に見た子供達の恐怖と不安でいっぱいになった表情を今でも忘れる事が出来ません。あんな辛い思いをした子供達のために、これから来る彼らの明るい未来のために自分に出来る事は何かないかと考えています。



過去に幡ヶ谷再生大学の物販を手伝ってくれていた中学生のRくんを紹介したい。親と訪れた北海道のフェスで偶然見たBRAHMANに心動かされ、都内の公演、公園作りもたった一人夜行バスに乗り駆けつけてくれた。

一人で夜行バスに乗ってこんなに遠くに行くのも初めてで不安だったり、ちゃんと役に立てるか心配だったり、始めは緊張でいっぱいでした。

学校の部活はされていますか？

僕はバスケットですが、中学3年なので引退しました。

学校が終わってから何をされていますか？

受験勉強をしつつ、気分転換に音楽を聴いたり、趣味であるベースを練習したりしています。

幡ヶ谷再生大学の活動を知ったのはいつ頃ですか？

去年の始めくらいです。

幡ヶ谷再生大学の活動に参加されたキッカケは何だったのでしょうか？

震災以降、僕は募金くらいしかしておらず、自分にも何かできるといふと思っていました。

そんな時、好きなバンドのBRAHMANが、幡ヶ谷再生大学で震災復興に向けての活動をしていると知り、興味を持ったのがきっかけです。

2011・3・11と今回の自分の活動は関係していますか？

何か自分でも出来ることをしたいと思っていてたところでの参加だったので、関係していると思います。

現在の心境を教えてください。

石巻で自分なりに出来ることをやったりもしたので良かったと思います。達成感や充実感みたいなものが残っています。是非また石巻に行きたいです。

現在、1県在住とお聞きしましたが、日頃、何を考えますか？

正直、今は中3なので進路に悩んでいます。でも震災や活動のことは忘れてはいけません。僕は元々東京に住んでいて、石巻で活動したのは東京に居たときでした。その後父の転勤の都合で1県に引っ越したため石巻がとても遠くなってしまい、今は行けそうありません。数年で東京には帰れると思うので、必ずまた石巻に行きたいと思っています。

2011・3・11 から2年半が経とうとしている。

世間の関心が薄れていくなかで、5人それぞれが現実と現状を知ったのは想像に難しくない。

2012・9・17

AIR JAM 2012 のステージに立ったアーティストたちが翌日駆けつけた場所に垣根はなかった。ステージを客席から観ていたファンも入り混じり、会話をかわし、食事をし、ベンキを塗りあい、共に汗をながした。

ファンたちにとってはかけがえのない1日となり、「思い出の土地」になったのは言うまでもない。

また、幡ヶ谷再生大学の活動に心を動かされたレゲエクルー-MIGHTY CROWNのMASTA SIMON氏、SAMI-T氏も駆けつけ、自身たちで運営するMIGHTY CROWN ENTERTAINMENTからは、2012年4月、神奈川県横浜市で開催されたチャリティーイベントで受け付けた募金からテーブルと椅子がその場所にプレゼントされた。ロックバンドRIZEのJESE氏も駆けつけ、子供たちと公園に埋めたタイヤにベンキを塗った。

津波によって流された笑顔は、新たな笑顔を生み、ふたたび取り戻そうとしている。震災がなければ、その笑顔はなかったはずだ。

しかし、この場所はその笑顔が何年続くかは分からないのだ。

復興計画のためののちのち公園が壊れられよう可能性があるからだ。それでも2013年現在、幡ヶ谷再生大学の「自主連」と称し、草むしりをする同志たちがいる。この夏には、お祭りなどの催しものも企画されており、その地域に住む人々にとってもきっと思い出の場所になるはずだ。

大なり小なり建造物とは、作った人物の名前、または団体名が記されるのが通例である。その公園は当初、タイヤしかなかったため「タイヤ公園」と呼ばれていたようだ。

通例にならえば、場所は「幡ヶ谷再生大学公園」と名付けられる。

しかし、その公園に集まる者たちは不器用な人間達の学び舎の名前ではなく、前日までの興奮が冷めやらぬ思いが、誰かが公園に記した「AIR JAM」にちなんで「AIR JAM 公園」と呼ばれ、愛されているようだ。



幡ヶ谷再生大学復興再生部 小淵浜子供広場作り

震災後宮城県石巻市でさまざまな活動を通じ、去年9月から始めた子供広場作り。

たくさんの人と思いが集まって11月、石巻市大街道南に完成しました。

今年はワカメ漁などたくさんの交流が続く小淵浜で新たに子供広場作りを始めます。

昨年の大街道子供広場の数倍の広さとなりますので、さらに多くの方のご参加を呼びかけたいと思います。



✓ 編集後記

Hatasai magazine VOL.3作成にあたり、ユカリさん(つなげる・つたえるプロジェクト/幡ヶ谷再生大学)を通じて5人の男女に14の質問をさせて頂いた。質問の返答はおどろくほど迅速で、催促することなく2日ほどで5人から大量な文字と想いのつまった返信が返ってきた。

5人からは、顔を合わせたこともない人間にメール越しでも伝わってくる明るさと謙虚さ、哀しみを乗り越えた強さを感じとれた。また、写真素材をもらう時も個人情報保護などにより、まわりくどくなりすぎた現代が背景にあったとしても早急な返信と大量の写真素材を送って頂いたことに感謝しなければならぬ。

14の質問のなかに「嫌な思い出はありますか」という問いに対し、誰ひとりとして不平はなかった。読みものを作る側としては不平を文字にしたほうが簡単である。だが、『特にありません』と答える一方で、『もっと早く知っておけば良かった』、『逆に良い思い出はありません』という想像を超える答えが返ってきた。

インターネットの普及など、人々の生活が便利になる一方で暗い側面を持つようになったのは誰もが感じている。過度に保護される世の中を忘れさせるやり取りがそこにはあり、参加した当事者たちの偽りを感じさせない返信には心温まるものがあつた。

また、建造物を作るということを終戦直後の日本人たちは誇りにしていたと聞く。

たとえば、「あれはお父さんが建てたものだぞ」というフレーズは、漫画やテレビなどで聞いたことがない人はいないだろう。焼け野原になった日本に、豊かな象徴を指す言葉として実際に用いられたからこそ21世紀まで残っているフレーズなのだと感じる事ができる。

だからと言って、一回も公園作りに来なかった人は誇りを持つてはならない、とは断じて思わない。先日、愛知県名古屋市の音楽フェスに出店させてもらった際、老若男女問わず商品を購入し、また多額の募金をしていただいた。

『頑張ってください』という温かい声は、大きな励みになったのは言うまでもない。

助け合いと依存はちがうが、全国各地から集まるそのお金は公園作りの基金となり、運用されるのだから「参加者すべての公園」と捉えて頂くのが大義名分であり、活動の源泉にもなっていることを忘れてないで欲しい。

活動は、今後もつづく。

毎回のその日の公園作りが終わるとき、ユカリさんと学長から挨拶がある。

以前、学長は『俺たちは公園を作りに来ていないんじゃない。仲間を作りに来ていたんだ』という事を口にした。

仲間はゆるやかに確実に増えつつある。

公園作りにはHPやSNSで毎回募集をかけるが100人から150人の枠が遅くとも半日、早ければ1時間で埋まってしまふ。驚異的なリピーター率もあり、新規の人数を減らすなどし、改善を図っている。

ボランティアの現状をよく知る方に言わせれば驚異のリピーター率だという。嬉しい悲鳴ではあるが、より多くの人に体験していただく為に運営側も苦心しているのが現状になった。つまり、行きたい人と、「また行きたい」という人が溢れているのだ。

ボランティアである限り、無償である。それでも来たいと思えるのは情報や口コミで拡がった賜物に他ならない。

良い時があれば、悪い時もあるがこの世の常なのは誰もが知っている。

2011年のあの日があったから、現在がある。

不器用な人間達の学び舎はその1年後に全国に門戸を開くことになった。

その尽力も有り2年後には公園が完成することができた。3年後には何ができているか、それは誰にも分からない。

彼らに限って成果主義に踊らされることはまずないだろう。ただ言えるのは、力強い足取りで全国にできた頼もしい仲間たちと手を取り合い、歩いていく姿だけは確信できる。

幡ヶ谷再生大学陸上部の活動と再生部の都内だけの活動をしてきた筆者にとって、今回、Hatasai magazine VOL.3作成の一員になれたことを誇りに思います。お見苦しい文章ではありましたが、御拝読ありがとうございます。山口努

<http://www.tmbnty14.com>

■ ご支援、ご協力について ■

私達、幡ヶ谷再生大学復興再生部は音楽やスポーツを通じて繋がった仲間達、そして皆様のご協力のもと、長期的かつ継続的な復興支援を行っていくことが出来ます。現時点、当団体は専任のスタッフも雇用しておらず、ボランティアによる、少人数での運営となっております。その中で、あくまでも現地との連携を直接的にする事、個人、団体、自治体に関わらず、私達の力を必要とする場所へ確実な復興支援を目指していきます。随時、人手募集や物資の募集も行います。また、皆様よりご支援頂いた物資や支援金は当団体が責任を持って復興の為に使わせて頂きます。ご理解頂ける方のみ、ご賛同、ご協力をお願いいたします。

※ご支援、ご協力頂いた方は、その期の復興再生部の生徒と共に参加頂けます。

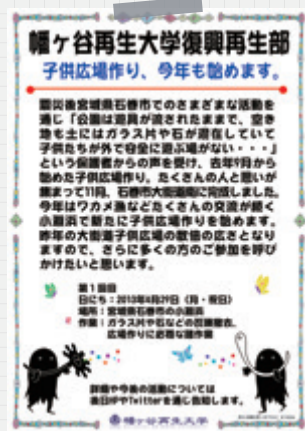
幡ヶ谷再生大学復興再生部
<http://hatagaya-saisei-univ.jp>

宮城県石巻市・小渕浜子供広場作り

「津波によって公園が流され、仮設住宅の脇にある小さな敷地で遊び、瓦礫で遊んでいた子どもたちに安心して遊べる公園を…」

その声に対して私たちができること。

2012年に大街道での公園作りを手伝って頂いた小渕浜住民の方々の提案で、2013年から小渕浜での公園作りが始めることができました。



忘れないでいてほしい。一年に一度でもいいから来て欲しいです。

今回の発起人ともされる木村美輝さんにお話を伺いました。

幅ヶ谷再生大学冊子Vol.2にも登場して頂いた過去から、現在までの心境の変化を話して頂きました。

小渕浜に公園を作りたい、と思いついたときの心境を聞かせてください。

子供たちが瓦礫のなかで遊んでいて、ケガを負ったりしていました。小渕の狭い道路では、ダンブがいついっしょに歩いて危険でした。

家も、家族も、親戚も、思い出なくなってしまう子供たちにせめて、遊び場所を、と思っていました。

大街道の公園を作っていたので幅ヶ谷再生大学(以下:幅再)に「俺のとこにも」とお願いしました。

公園作りの苦労話などがあれば聞かせて下さい。

幅再の人たちが遠くから来てくれているのに「俺も頑張らなくちゃ」という思いで作業をしていました。作業的には地面をなぞそうと砂を何度も運んだりしても雨で流されてしまうのが大変でした(苦笑)

その時から現在までの心境を聞かせて下さい。

子供たちが楽しく遊べる場所が欲しい。これ以上、嫌な思いをさせたくない、という思いで取り組んできました。今は完成した公園で子どもたちが遊ぶ姿を見ているとつくづく「良かったなー」って思っています。

公園作りには大量の人が押し寄せたこともあり、困ったエピソードなどがあれば教えてください。

公園作りにたくさんの方が来てくれるのは物凄くありがたかったですね。たくさんの方に震災を、小渕を忘れてほしくなかったのが、人が来てくれるのは嬉しかったです。でも、なかにはマナーが悪い人もいましたね。でも、ほんの何人かでした。人が多いときの食事関係が大変だったと思います。しのぶたちは本当に大変だったんじゃないかな。

育った町に甚大な被害を与えた2011・3・11のあの日から現在まで何が一番変わりましたか？

あの日から今までが一番変わったのは多くの人たちとの出会いと、信頼や、絆や、同じ気持ちの仲間たちが増えたことです。そして、震災前からじゃないですね。人間は1人で生きていけませんよね。家族や友達、親戚などいっぱいいますが、知らない人たちがこの震災で繋がり、新たな出会いや想いができたことかな、と思います。

他のボランティアさんと幅ヶ谷再生大学のボランティアさんの違いはありますか？

幅ヶ谷と他のボランティアとの違いは人が人として学んでいく団体かな、と思います。ボランティアは「人のためにいろいろしてあげたい」って感じだけど、幅再と一緒にやっという！一緒に学ぼう！一緒に前に進む！って感覚。共に笑い、共に学び、共に泣き、前に進んでいく団体かな！



また、「こうして欲しい」といったものがあれば教えてください。

これで終わりじゃなく、忘れないでいてほしい。一年に一度でもいいから来て欲しいです。

今回の活動を通して繋がった人達に一言あればお願いします。

感謝しなさいです。

いくら強がっても1人では何もできなくて、ここで繋がった沢山の人たちに心を支えてもらっています。公園に関わった人全員に「ありがとう」って言いたいです！

これからも遊びに来てください！小渕に来たときは是非声をかけてくださいね。

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とはなんですか。

共に歩いてくれる仲間たちがいる学校です！

最後に一言あればお願いします。

公園のお披露目式ではたくさんの人たちが忙しい合間を見て来てくれて本当に感謝しています。TEAM BRAHMANの皆様、難波さん、細美さん、マンツイのタナカさん、他沢山のミュージシャンの人たちが関わってできた公園です！手作りの公園であれだけのものが出来るって本当スゴいと思います！

幅ヶ谷再生大学の皆さん、感謝しています！ゆかりさん、ありがとうございます！ゆかりさんがいなきゃ繋がらなかった！ラッコさん、毎回ありがとうございます！

これからも小渕浜をよろしく願っています。

東京都心部から小渕浜まで、およそ450km。

県外から、そして宮城県内から大勢の“生徒”たちが駆けつけてくれました。

本来の仕事をもちながら、足繁く通って頂いた方々を紹介したい。

震災前よりずっと石巻が好きになりました。

宮城県石巻市に住む菅原倫子さんは幅再の活動がなくとも小渕浜に訪れ、親交を深める一人である。

お仕事は何をされていますか。

事務職です。

幅ヶ谷再生の活動は何を通して知りましたか？

イベントに出店していた幅再ブースで知りました。

それはいつ頃ですか？

2012年秋頃です。

初めて活動に参加したときの感想を聞かせてください。

初めて参加した活動は2013年5月の小渕浜公園作りでした。

まず、小渕浜の方々とすぐに打ち解けたことを覚えています。参加者も皆馴染みやすぐ作業が楽しくて、時間が経つのがいけなく早く感じました。

その時から現在の心境を聞かせて下さい。

参加してよかったし、参加できてよかったと思っています。幅再のおかげで「小渕浜」を知ることが出来たし、たくさん仲間も増えました。

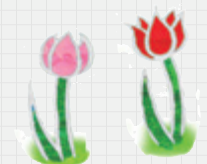
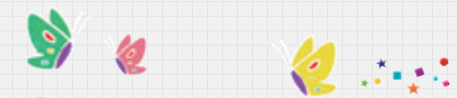
育った町に甚大な被害を与えた2011・3・11のあの日から何が一番変わりましたか？

地元に対する想いです。

震災前よりずっと石巻が好きになりました。

現在の心境を教えてください。

3・11規模の震災はもう二度と経験したくありませんが、震災前にくらべて大切にしていきたいものが増えたな、と感じています。



今後の人生においてこの経験は役立つと思いますか。
はい。必ず役立つと思います。
今回の活動を通して小渕浜で繋がった人達に一言あればお願いします。
またみんなで笑おう！

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とは？
無数のキッカケが生まれる活動の場です◎



やっぱり継続していかなければいけない事は、たくさんあるなって。

同じ石巻市内に住み、時間をみつけては何度も小淵浜の公園作りを手を貸して頂いた方々がいました。

重機を入れ、残材を使ってベンチなどを作ってくれた岡田康正さんを紹介したい。

お仕事は何をされていますか。

土屋屋です。

幅ヶ谷再生の活動は何を通じて知りましたか？

イベントに出店していた幅再ブースで知りました。

それはいつ頃ですか？

幅再は、僕はブルレジ (BLUE RESISTANCE: ブルーレジスタンス「東北ライブハウス大作戦」) により誕生した石巻市に居を構えるライブハウス) に入居していたので、自然と知りました。

初めに活動に参加したときの感想を聞かせてください。

感想…。僕が行ったときにはある程度、出来上がってました。道具を作るための基礎工事で、重機を動かしてくれて言われての参加だったんで、ここまで出来上がるまでの、いろんな人の努力がすげーなのが、最初の感想でした。

その時から現在の心境を聞かせて下さい。

今の心境としては、やっぱり継続していかなければいけない事は、たくさんあるなっていう気持ちがデカくなった感じですかね。

育った町に甚大な被害を与えた2011・3・11の日から何が一番変わりましたか？

3.11以降は、全てが変わりました。家も仕事も失って、生活全てが変わりましたし、考え方や思う事も変わりました。全て悪かったと思わないのは、ブルレジが出来て、諦めたはずの音楽に向き合うことが出来たってのがあるだけで、生活としては大変になったの一言っすね。

現在の心境を教えてください。

将来に対する不安が1番大きいかも知れないですね。

初めは「みんなバンドの人達目当てで…」って思っていました。

石巻市に住む亀山幸一さんは、幅再の活動日ではなくとも自発的に足繁く公園に通う一人である。

お仕事は何をされていますか。

建築関係の現場作業員です。

幅ヶ谷再生の活動は何を通じて知りましたか？

幅ヶ谷再生大学の活動に参加した友人から聞き知りました。

それはいつ頃ですか？

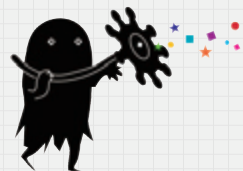
昨年の春頃だったと思います。

初めに活動に参加したときの感想を聞かせてください。

自分が初めて参加した時は参加人数が百名以上おり、震災後全国から多くの方が石巻にボランティアとして来られていたのを聞いたりはしていましたが、実際これだけ多くの方が石巻に来てくれているのを目の当たりにして改めて感謝の気持ちになりました。

その時から現在の心境を聞かせて下さい。

初めは「みんなバンドの人達目当てで…」って思っていました。でも実際はそうではなく「石巻はいいとこだよ」って言うてくれて、幅再の活動がなくても遠方から遊びに来てくれる人達がたくさんいて、石巻の人間としては嬉しい思いをしています。



今後の人生においてこの経験は役立つと思いますか。

経験としては、全て役に立つものだったと思ってます。ただ、こういう経験をしてない人には、絶対にしてほしいと思う様な経験なんで、この先こんな事が2度と無ければいいと思いますね。

今回の活動を通して小淵浜で繋がった人達に一言あればお願いします。

一言か。やっぱり繋がっていく事は1番大切な事だと思うんで、震災前から認識があっただけでも、親しくなったりもして、よりよい関係になれた事は素直に嬉しいですし、みなさんには、いろんな意味でありがたうって言いたいですね。

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とは？

俺にとっての幅再は、やっぱり繋がりますかね。ボランティアに携わりたい人、それを可能してくれる人、それをやる為の力を惜みなく使ってくれる人、そういう人達の繋がりを広げていく、そういうもんかなと思います。



育った町に甚大な被害を与えた2011・3・11の日から何が一番変わりましたか？

自分の考え方ですね。「いっどうなるのかはわからない」ということを身をもって経験したので、無理をしてもやれる事はやっておくって考えるようになりました。今は楽しめることは楽しもう、って心境でLIVEばかり行って遊んでますが…(笑)

現在の心境を教えてください。

住んでいる所も世代も違うけれど、自分と同じような考えを持った人達と出会ってくれた幅ヶ谷再生大学に感謝します。

今後の人生においてこの経験は役立つと思いますか。

むしろ役に立つように人生を送っていきたいと思います。

今回の活動を通して小淵浜で繋がった人達に一言あればお願いします。

いつか小淵の公園で子供達の邪魔にならないように大人で大人で全力で遊びましょう(笑)

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とは？

実際に通った大学よりも大事なことを学ばせてもらい、また多くの大切な出会いを与えてくれた素晴らしい大学です。



あの日以来、“何かしたい”と思えるようになりました。

故郷は福島県南相馬市、現在は宮城県内で生計をたてる林さん。幅再の出店のお手伝いもして頂きました。

幅ヶ谷再生大学の活動は何を通じて知りましたか？

「東北ライブハウス大作戦」を通じて知りました。

予定地の1つが石巻で、友人のカフェが津波で流されてしまった場所でした。そこで、『なにかお手伝いさせて下さい!』と大作戦のHPお問い合わせフォームに書き込みをしました。2012年6月くらいだったと思います。

その後、BLUE RESISTANCE 店長の黒澤さんから『ライブハウス以外のことなだけど…』とご連絡を頂きました。その頃、幅再が「みなと荘の恐竜公園作り」をしていた時でした。

初めに活動に参加したときの感想を聞かせてください。

人見知りが発動していました(笑)

でも参加されている方々と話してみると、私のように一人で参加の方や遠方から来られている方も多かったんです。皆、昔から友達のように楽しそうに作業していたのが印象的です。

その時から現在の心境を聞かせて下さい。

「被災地沿岸部に子供達が安心して遊べる公園を作る」という趣旨を伺ったとき、私の故郷である福島県・南相馬を思いました。安心して外で遊ばない、という点で一緒ながら、また違った理由が福島にはあります。せめて大人も子供も笑顔になれる場所が東北に増えるようにと願いつつ、参加させて頂いています。

幅再の公園は、皆でその場で意見を出し合って皆でやってみようという感じで、参加した人達の気持ちが伝わっています。各地に根付き愛される場所になることを願っています。

2011・3・11の日から一番、何が変わりましたか？

以前はボランティアをすること自体無縁でした。

でもあの日以来、“何かしたい”と思えるようになりました。自分にできる“何か”を考え、小さくても出来ることを思うだけじゃなく実行しようと思えるようになりました。極度の方向音痴のため迷子を敬避していた私がナビを使って、ETCを付け…行動的になったと思います(笑)

現在の心境を教えてください。

東北ライブハウス大作戦をきっかけにBLUE RESISTANCE建設前の解体作業や、幅再の公園作り(みなと荘・大街道・小淵浜)、石巻の農家さんのお手伝い、幅ヶ谷再生大学農学部、など。大切な場所や大切な人が増えました。そのすべての繋がりに感謝しています。

震災に対する意識・関心の差に苦しむこともありました。

宮城県仙台市で生まれ育ち、現在は栃木県で暮らす大学4年生の佐藤俊宏さん。笑顔が印象的だった彼の「最後の一言」が印象に残りました。

幅ヶ谷再生の活動は何を通じて知りましたか？

2012年3月のBRAHMANのツアー「霹靂ファイナル」のDVDから知りました。

初めに活動に参加したときの感想を聞かせてください。

参加する前はとても緊張していましたが、小淵浜のあたたかい雰囲気と共に参加した仲間たちのおかげでリラックスして楽しく活動することができました。

また、あたご荘の裏には多くの瓦礫が残されており、草むしりしている時に泥まみれの生活用品を発見して、2年経っても未だに深く傷跡のこる津波の恐ろしさを目の当たりにしました。今でもあの光景を鮮明に覚えています。

その時から現在の心境を聞かせて下さい。

小淵浜に流れる空気感とそこに集まる仲間や地元の人が好きで何度も足を運ぶようになりました。沢山の人たちの様々な想いが込められた公園が、この先も子供たちはもちろん、沢山の人が集まる素敵な場所になれば良いなと思っています。

2011・3・11の日から一番、何が変わりましたか？

周りの環境が一番変わりました。震災後の2011年4月、大学のために関東へ引っ越しました。宮城県には今も家族が住んでいるため東北、とくに宮城県のことはいつも

今後の人生においてこの経験は役立つと思いますか？

役立つ、というか、この経験を通して感じた想いや温かい気持ちを、今後も忘れない自分でありたいと思います。

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とは？

目に見えない繋がりが形になる場所だと思います。

最後に一言あればお願いします。

各々がった環境、想い、抱えているもの、越えていかなければならないもの、があると思います。頑張れないときもありますけど、少しでも前向きな自分でいたいなと思いますし、笑顔が笑顔を生むお手伝いが出来たらな、と思います。

震災後、音楽の力や人の繋がりを強く感じていて、現在働いているお店で東北ライブハウス大作戦の募金箱を置いています。これからも細々ですが継続的に、幅再はもちろん、東北ライブハウス大作戦も、可能なかぎり自分なりに関わっていけたら、と思っています。



気にかけています。関東に来てからは震災に対する意識・関心の差に苦しむこともありました。



現在の心境を教えてください。

3・11のあの日、私は宮城県仙台市で被災しました。あの時から根本的なところは変わっていません。関東に来てからもあの日の出来事を忘れた日はありません。震災から3年経ちましたが、未だに表面上では浮き彫りにならない多くの潜在的な問題もあります。今後も地元の東北復興の手助けが少しでもできれば良いなと思っています。もちろん現地に赴くことが一番だと思います。今いる関東でもできることは必ずあるので何かできることはないか、と幅再の仲間と相談しながら日々できることを模索しています。今後の人生においてこの経験は役立つと思いますか？

幅再の活動に参加できたことは自分にとって確実にプラスになったと思います。ゆかりさんをはじめ、幅再をつうじて多くの方々といろんな話ができたこと、貴重な体験ができたことはどんな形にせよ、今後必ず役立つと思います。

今回の活動を通して小浜浜で繋がった人達に一言あればお願いします。

ゆかりさんをはじめ、本当に感謝しかありません。大切な仲間ができました。また石巻に行くのでその時は遊んでください(笑)

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とは？

素敵な仲間と繋がることができた場であり、自分の想いを行動に移すことができた場所です。多くのことを考え、行動するキッカケを与えてくれました。

最後に一言あればお願いします。

テレビや新聞、ネットなどのメディア、人から聞いた話だけで、判断せず、自分の目で直接確かめて、感じてほしいです。是非、東北に、石巻に、小浜浜に直接足を運んで、その目に、心に、刻んでほしいと思います。

小浜浜の方々には「公園ができる」と聞いたときから、

「公園の完成」まで何を思い、何を感じていたのだろうか。

「お前も頑張れ」って言い聞かせることができる自分がいます。

公園のあった場所で生まれ育った小池智美さん。彼女がその日みた光景とは。

お仕事は何をされていますか。

医療事務をしています。

幅ヶ谷再生の活動は何を通じて知りましたか？

公園作りを通じて知りました。

それはいつ頃ですか？

TOSHI-LOWさんが来ていた頃ですかね。

小浜浜に公園ができる、と聞いたときの感想を聞かせてください。

3・11によって住める状態じゃなかった実家が建っていた場所は、行政の手により順番に壊されることは知っていましたが、気づいたらなくなっていました。そんな場所に公園ができるって聞いたときは嬉しかった。

その時から現在までの心境を聞かせて下さい。

来てくれたことに感謝しています。

大量に人が押し寄せ、困ったエピソードなどがあれば教えてください。

人見知りということもあり、いろんなことにビックリしていました(苦笑)

育った町に甚大な被害を与えた2011・3・11のあの日から何が一番変わりましたか？

「お前も頑張れ」って言い聞かせることができる自分がいます。津波で流された風景にこの公園もそうですけど、何もなかった場所に一つまた一つと「建造物」ができていくことが何より嬉しい出来事です。

現在の心境を可能な範囲で教えてください。

3・11があったから感謝することの意味を考えたことができましたし、「頑張ろう」と思えた。人見知りも少しは克服できたかな、と思います(笑)

他のボランティアさんと幅ヶ谷再生大学のボランティアさんの違いはありますか。

カジュアル、って言えば良いんですかね。

他のボランティアさんにも『来てくれてありがとう』と思っていました。思っ

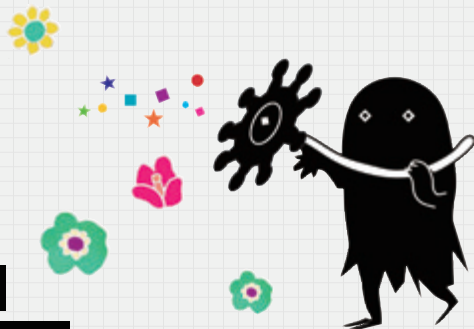
それは自分が言ったことではないかもしれませんが。

でも、想いは口に出さない、行動に移さないと人に伝わることはありませんし、意味がないと思っています。

強い想いは必ず人を行動へと突き動かすものだと思います。行動することで、直接行き、確かめ、感じる事が全てだと思っています。関東に住んでいると周りの意識の差があり、自分が間違っているのかと悩むこともありました。

しかし、あの場所に、復興を目指して頑張る仲間たちが集まることで自分の気持ちを再確認することもできました。大切な仲間もできましたし、貴重な経験をすることもできました。

なかなか、想いを行動に移すことができなかった自分へ行動するキッカケとその重要性を教えてくださいました幅再にはとても感謝しています。



んですが、「作業をしている」という印象を受けてはいました。その点、幅再の方々は作業中に笑ったりしていたり、自分たちが楽しむためにやっている印象を受けました。一番印象に残ったのは、帰って行くときに楽しそうに帰っていく姿が他とはまったく違う印象を受けました。

また、「こうして欲しい」といったものがあれば教えてください。

今回は機にも良いので、小浜浜に来てもらいたいですね。

今回の活動を通して繋がった人達に一言あればお願いします。

小浜浜の存在を知り、「来たいな」と思い、訪れて貰えたら嬉しいです。

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とはなんですか。

人見知りをハビリしてくれた場所かな、と思います(笑)

2014・4・29のお披露目会では閉会の言葉を求められる。彼女はステージに上がり、その風景を見渡すと涙が溢れ、最後まで言葉を口にする事ができなかった。3・11から彼女が背負ってきた想いがある。その日、目にした光景は古くからの近隣住民が集まり、ふたたび笑顔が集まったことが何より嬉しかったのだという。



何十年も前から知っている仲間みたいな存在です。

小浜浜で生まれ育ち、幅ヶ谷再生大学の公園作りでは食事の用意をしてくれた石森しのぶさんは「石巻へい輪プロジェクト」の舵取りをしている。(https://www.facebook.com/ishinomaki.heiwa.projyect)

お仕事は何をされていますか。

漁師をしています。

幅ヶ谷再生の活動は何を通じて知りましたか？

石巻へい輪プロジェクトを通じて知りました。

それはいつ頃ですか？

へい輪プロジェクトが動き出したときに知ったので、11年の8月くらいだったと思います。

小浜浜に公園ができる、と聞いたときの感想を聞かせてください。

めっちゃ嬉しかった。それまであった公園も流され、仮設住宅の狭い部屋や、瓦礫でしか遊べていない子供たちを見ていたので…。

その時から現在までの心境を聞かせて下さい。

3・11から、大人の顔色を伺って生きてきた子供たちの無邪気な笑顔を見たとき、そもそも日常が戻ってきた感じがしています。

大量に人が押し寄せ、困ったエピソードなどがあれば教えてください。

こっちも落ち着いてないし、はしゃげないし、「静かにして見守って欲しい」という一面と「復興を急がねば」という葛藤がありましたね。

育った町に甚大な被害を与えた2011・3・11のあの日から何が一番変わりましたか？

この世に当たり前など存在しないことを痛感しています。時間を意識するようになって、「その時」がすべてになりましたね。

現在の心境を可能な範囲で教えてください。

大人を元気にしようとして動ましていた子どもたちが、公園で遊ぶ本来あるべき姿で遊んでいるときには本当に涙が出てくる思いでした。それまであの子たちは瓦礫で遊んでいたんですね。完成を迎える前からでも、ありがたい気分にはされていました。

他のボランティアさんと幅ヶ谷再生大学のボランティアさんの違いはありますか。

第一に、この町の人たちのことを大切にしてくれています。

1年でこんなにも何回も来てくれる団体は、そう多くないんじゃないですかね。一緒に楽しんでくれますし、同じ目線に立ってくれますし、ほったらかしにしない印象があります。安心感が「他」とは違います。

にぎやかな人達！楽しい人達かな？大人の方も喜びを共感できる集団。

あたご荘の女将さんは、公園のその場所を無償で提供してくれたその人である。

お仕事は何をされていますか。

民宿を経営しております。(あたご荘 http://atagosou.com/)

幅ヶ谷再生の活動は何を通じて知りましたか？

公園作りを通じて知りました。

それはいつ頃ですか？

昨年ですね。

小浜浜に公園ができる、と聞いたときの感想を聞かせてください。

良かった！子供たちが安全に遊べる！と思いました。

その時から現在の心境を聞かせて下さい。

活動している人たちが大変だっただろうと思った。

大量に人が押し寄せ、困ったエピソードなどがあれば教えてください。

民宿の施設内にたくさんの人たちが自由に入り、あとの掃除が大変だった事があった。

育った町に甚大な被害を与えた2011・3・11のあの日から何が一番変わりましたか？

♡ 心かな？

現在の心境を可能な範囲で教えてください。

感謝!!!でもこの先が少し心配かな？

また、「こうして欲しい」といったものがあれば教えてください。

とくにありませんが、ただ共に歩んで行って欲しいですね。

今回の活動を通して繋がった人達に一言あればお願いします。

自分の仕事もあるでしょうから、ふとした瞬間に思い出してくれたら嬉しいです。

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とはなんですか。

自信をもって薦められる団体です。彼らはボランティア団体ではなく、共に「人生」を歩んでくれる存在です。つねに笑って喋れるのは、「心」を支えてくれるからなんだと思います。何十年も前から知っている仲間みたいな存在です。



また、「こうして欲しい」といったものがあれば教えて下さい。

とくにありませんが、2011年に来て頂いたボランティアさんが何度が「ただいま」と帰ってきてくれるときは、本当に嬉しい気持ちにさせられる。

今回の活動を通して繋がった人達に一言あればお願いします。

今後も長く細くじゃないですけど、お付き合い出来たらいいかな！

あなたにとって幅ヶ谷再生大学とはなんですか。

にぎやかな人達！楽しい人達かな？

大人の方も喜びを共感できる集団。



おたご荘

宮城県石巻市小淵浜の民宿 あたご荘
〒986-2415
宮城県石巻市小淵浜カント 14-4
<http://atagosou.com>

3・11のあの日、津波によって海沿いに建つあたご荘も被害を受ける。

被害を免れたあたご荘2階は、その日からボランティアの宿場として“場所”を提供する。その後、民宿を再建するか、否か迷ったともいう。

それでも再建した現在がある。

女将さんは口にごそしなかったが、大勢の人があつまり、押し寄せた公園作りでは様々な苦悩と葛藤があったのだと、それらのことを筆者は他人から聞いた。

『公園のために土地を提供したことに後悔はありませんか？』という、少し意地悪な質問をぶつけると『ありませんよ！』と微笑みかけながら即答する姿には考えさせられる情景があった。

ただ走っているというか。でも走らずにはいられませんでした。

これまで、県外から、石巻市内から、小淵浜から公園作りに参加して頂いた方々を紹介してきた。最後に田淵一平太さんを紹介したい。小淵浜を通じて、あるいはそれ以前から、生き方を変えた田淵さん。

2011年に会社を辞め、人生に迷い、途方にくれていた頃からは振り返って頂きました。

動んでいた会社を辞めた理由を聞かせて下さい。

2011年の4月から動めていました。3・11があって、「こんなことして良いのかな」って葛藤がずっとあったので3ヶ月で辞めました。

辞めてから聞かせて下さい。

日本一周しようと思っていたんですけど、東北にボランティアに行くことが先決かな、と思い岩手県遠野市で活動を始めました。

その夏ですね。気分転換でROCK IN JAPAN FES!に行って…。そこでBRAHMANのステージを見ました。

ファンだったんですか？

いえ。でも音源は持ってました(笑)

あのステージを見て、自分の中の何か動くのを感じました。

その後はどうされたんですか？

ゴールのないマラソンをしている感覚でした。ただ走っているというか。でも走らずにはいられませんでした。

その何ヶ月後にBRAHMANのツアー「露體」ファイナルのDVDを買いました。その中に「幅ヶ谷再生大学」のドキュメンタリーが入っていて、最後に出てくる「2012年3月11日 復興再生部 開設 一般部員募集開始」に飛びつきました(笑)

これしかない？(笑)

でしたね(笑)

その後にURLが出てくるんですけど、すぐアクセスしました。それからちよとしてから、わかめ漁のバイトを募集していて『あ、金くれるんだ！』って(笑)

それが運命を変えました？

最初はそう思いませんでした(笑)でも、小淵浜の人たちに触れると離れられなくなっている自分がありました。みんな本当に優しくて…

そんな時に公園作りの話を聞き、嬉しかったです。本当に繋がりが深くなった場所なので、できる限り手伝いたって思いました。

結果的に現地にいらってことで、いつの間にか「お前現地担当な！」みたいになって…(笑)

漁師さんの手伝いをしながら公園完成までの約1年、現地との調整や作業補助など、色々な形で活動に携わらせていただきました。

現地担当になってから聞かせて下さい。

公園完成に至るまでには、失敗と調整と試行錯誤の繰り返しで、そのたびに頭を抱えていました。最後の道具作りなんて毎日、頭と胃が痛かったですね(笑)

ただ、完成に至るまでに本当に色々な人が力を貸してくれて、幅再の活動として参加してくれた人達は勿論なんですけど、その裏で力を貸してくれた人達の力がすごく大きかったということです。

裏で力を貸してくれた人？

道具は、幅再と全然関係ない人にも手伝って貰っているんです。僕と一緒に美輝さん(P20)の所で漁作業とか、何でもやってくれるYさんがいました。問題が起きるたびに頭を悩ませている僕を見かねて手を貸してくれました。公園作りもそのたびに手伝ってくれて、Yさんがいなかったらもっと時間がかかっていたと思うし、あんな立派な公園にはなってないと思います。



そんな裏側があったんですね。

道具作りに関しては、色々アイデアを頂いたり、相談に乗ってくれた地元材材所の社長さん。本来得意先の仕事しか受けない製鉄所の社長さんにも手伝って貰いました。幅ヶ谷再生大学がたとえNPO法人だとしても、その層の方からみたら得体の知らない団体ですよね？

無茶な仕事を快く引き受けてくれた方々によって支えられていました。感謝をこえた感慨があります。

最後に一言お願いします。

いつも親身に相談に乗ってくれた「へい輪プロジェクト」のしづさん(P.25)、あたご荘のお父さんお母さん(P.25)、色々な部分で手を貸して頂いた現地の方々、現地との調整とか、色々支えて頂いた幅再の運営の方々にもこの場を借りて御礼を言いたいです。

こんなひよっ子を我慢強く、時に厳しく使い続けてくれたゆかりさんと美輝さん(P.20)、本当に沢山の助けがあって成り立っているのと、僕自身が一番感じた部分を、活動に参加した人含め、これを読む人に少しでも知って頂ければ幸いです。

公園は完成したのかもしいないけど、それで終わりじゃないよ、って思うんです。

そうですね。

活動に参加して終わりじゃないと思っていて、幅再だってきっかけに過ぎなくて、活動がなかったら行かないんじゃないかって、何にもなくても小淵はあるんで、今度は自分で足を運んで欲しいなあって思うんです。

そうすることが、本当の意味で繋がっていきつことなんじゃないのかな、と強く思っています。



田淵さんにとってキッカケは幅再だったのかもしれない。しかし、いわゆる“被災地”で過ごした歳月は彼の人生に大きな変化をもたらした。

小淵浜で過ごした2年間は“おんぶにだっこ”の状態だったとも言える。その恩返しをするかのように、現在は限界集落に身を投じ「地域おこし協力隊」(<http://www.iju-join.jp/chikiokoshi/>)として新潟県魚沼市に居を移している。「どの町も若い力を必要としている」と語り、小淵浜とは別の苦悩を現在抱えている。

「あなたにとって幅ヶ谷再生大学とは？」という質問に対し、『無理を貫き通す場所?』と笑ってみせたのが強く印象に残った。





繋がりは偶然じゃなくて必然！ONE LINK !!

大街道の公園作りでは現地足を運び、自身が運営するMIGHTY CROWN ENTERTAINMENTから幡ヶ谷再生大学に資金提供をして頂いたMASTA SIMON氏。小淵浜にも足を運んだ同氏が感じたことは。

小淵浜の公園作りを知った経緯を教えてください。

東北で行われたAIR JAMの翌日、石巻子供広場作りを手伝った時にTOSHI-LOWから紹介されたユカリさんに誘ってもらいました。

行こう、と思った心境を教えてください。

3.11以降、仲間たちと福島や宮城に何回かボランティアとして行ったりしていましたので、単純にまた行こうと思いました。

実際、現地に行って感じたことを教えてください。

現地に行く途中、震災を思い出しましたね。
普段、横浜で生活していると震災直後と比べて震災のことを考える機会が少なくなっていたので、現地に行くと思い出しました。だからといって暗くなるのではなく逆に明るく元気よく手伝おう!!と思いました。
STAY POSITIVE !!

小淵浜の活動でとくに印象に残っていることを教えてください。

いつも思うことなんですけど、どこから来てるのか分からない人たちが一緒に作業することが凄く良いな、と思いました！

不満に思ったことがあれば教えてください。

俺はまったくない！

今回の活動を通して小淵浜で繋がった人達に一言あればお願いします。

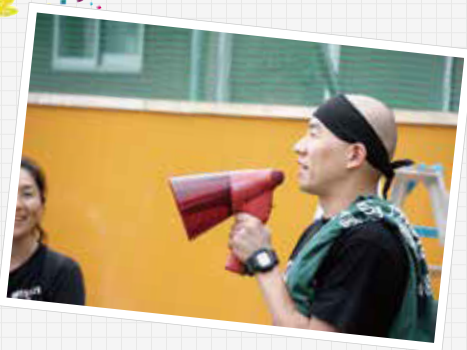
ONE LINK !!!! もっと繋がっていただけたら最高だね！

幡ヶ谷再生大学の活動をどう思われますか？

素晴らしいと思う！震災があった年は色々な人達が動いていたけど3年経ってもまだ続けているのが素晴らしい！応援してます！

読者に一言お願いします。

生まれや育ちが違っていても同じ価値観、思想、目標を持つ人は絶対にいる。そういう人達がどこかで繋がったら最高に楽しいし、もっと凄いパワーになると信じてます！繋がりは偶然じゃなくて必然！ONE LINK !!



たとえ小さなことでも、そこには必ず愛があって、
その愛に癒される人がいることを忘れないで下さい。

公園に土を運んでは重機で地面をならし、雨によって土が流された、と聞けば小淵浜に急行し、現地の方々と作業にあたった難波浩浩氏。HI-STANDARD、NAMBA69として活躍するかたわら、足繁く小淵浜に足を運んだ“想い”とは。

小淵浜の公園作りを知った経緯を教えてください。

TOSHI-LOWから公園作りの話はなんとなく聞いていました。NAMBA69で石巻のワンパークで初めてLIVEをやった時に、ゆかりさんと出会い詳しいお話を聞きました。

行こう、と思った心境を教えてください。

自分も何かしたい、、純粋に子ども達の遊び場を作ってあげたい、と思いました。

実際、現地に行って感じたことを教えてください。

まだまだ津波の爪跡は消えていないけど、悲しみを乗り越えようとしている皆さんの、一生懸命な姿に心を打たれました。逆に自分が元気をもらってしまふことも沢山ありました。

NAMBA 69のLIVEと公園作りが重なった日に「日をずらしてくれ」と頼んだ話をお聞きしましたが、それは本当ですか？

よく憶えてませんが、去年は公園作りの活動を優先にしたかったのは本当です。

今回の活動でとくに印象に残っていることを教えてください。

公園で遊ぶ子どもたちの笑顔です。

不満に思ったことがあれば教えてください。

津波は子どもたちの遊び場も奪いました。
空き地があってもガラスなど瓦礫が散乱していて、とても小さな子どもたちが遊べる環境がありません。是非とも行政も公園作りを力を入れて欲しいです。

今回の活動を通して小淵浜で繋がった人達に一言あればお願いします。

これからも遊びに行きたいのでよろしくお祈りします。皆さんの活動を心より応援しています。

幡ヶ谷再生大学の活動をどう思われますか？

今回活動に協力することが出来て本当良かったです。目には見えない日々の方々の活動、本当リスペクトしています。

読者に一言お願いします。

自分には何も出来ないとは思わないで下さい。
たとえ小さなことでも、そこには必ず愛があって、その愛に癒される人がいることを忘れないで下さい。



編集後記

七夕という行事がある。

日本の夏の風物詩ともされ、国民から愛されている。笹には先祖の霊が宿っているとされ、現代になって形を変え、短冊を飾りそこに“願い”を書くようになった。

子どもたちの願いをみると微笑ましい気分させられる。「あしがはやくなれますように。」「べんきょうができるようになりますように。」といった内容が書かれ、誰しもが書いた事柄はないだろうか。

「皆が、長生きできますように。」

昨年の夏、小淵浜の公園で実際にあった女子小学生の短冊である。
2013年4月29日に着工してから2014年4月29日に小淵浜子供広場作りはお披露目会を行い「完成」を迎えた。

その日、子どもたちは飲食店のまわりが集まったり、カメラ教室で写真を撮ったり、パチカ教室で楽器を鳴らしたりしていた。ところが、中学生ほどの子どもたちは賑やかな場所には寄りつかず、まるで大人の喜ぶ顔を見るかのように後方にいた印象が強い。

大人たちが変わったように子どもたちも3・11に境が変わった。

津波によって甚大な被害をうけたこの浜も例外ではなく、子どもたちは大人たちが悲しみに涙する姿を初めて見た。ある子にとっては大人たちのなかに自分の親も含まれ、肉親を亡くした子もいる。それらのことを筆者はこの浜に住む方々から聞いた。

短冊を書いた小学生はこの春、中学生になった。
彼女にとっての公園は「前にあった公園がなくなってしまったので、またみんなが集まれる場所」と嬉しそうに答え、公園作りに来てくれた大人たちには『自分たちがやらなければならないことをやってくれて本当にありがとうございます。忙しいはずなのに来てくれるのは本当に嬉しいです』と感謝を込めて答えた。

将来の夢を聞くと、この浜を訪れたたくさんさんのミュージシャンと友人の彼女は「ミュージシャンになりたい」と答えるのを筆者は予想した。

ところが、『イルカの調教師になりたい』と答える。
この浜から沖に出るとイルカに遭遇できると聞いていたので理解できた。

『イルカが好きなのか』と聞くと、
首を横にふり『イルカはみんなを笑顔にするからです』と彼女は淡々と答えた。

■ご支援、ご協力について■

私達、幡ヶ谷再生大学復興再生部は音楽やスポーツを通じて繋がった仲間達、そして皆様のご協力のもと、長期的かつ継続的な復興支援を行っていくことが出来ます。現時点、当団体は専任のスタッフも雇用しておらず、ボランティアによる、少人数での運営となっております。その中で、あくまでも現地との連携を直接的にする事、個人、団体、自治体に関わらず、私達の力を必要とする場所へ確実な復興支援を目指していきます。随時、人手募集や物資の募集も行います。また、皆様よりご支援頂いた物資や支援金は当団体が責任を持って復興の為に使わせて頂きます。ご理解頂ける方のみ、ご賛同、ご協力をお願いします。 ※ご支援、ご協力頂いた方は、その期の復興再生部の生徒として共に参加頂けます。

幡ヶ谷再生大学復興再生部
<http://hatagaya-saisei-univ.jp>